

2026年8月 日

町田市教育委員会
教育長 小池 慎一郎 様



町田市文化財保護審議会
会長 浜田 弘明

町田市登録旧跡の登録について（答申）

2026年8月17日付け26町教生総第165号で諮問のありました町田市登録旧跡の登録につきましては、町田市文化財保護審議会において審議いたしました結果、下記のとおり町田市文化財保護条例第37条第1項（5）に規定する町田市登録旧跡に該当する旨、決しましたので答申します。

記

- ・登録候補 1 石阪昌孝屋敷跡
 2 石阪昌孝墓

- ・登録基準 登録候補1、登録候補2ともに、町田市文化財指定・登録基準第2－6－（2）に該当するため。
 なお、概要および登録調書については別添のとおりです。

(概要)

2026年度 町田市登録旧跡候補〔答申〕

1 石坂昌孝屋敷跡

名 称 石坂昌孝屋敷跡

管 理 者 町田市

概 要 日本の近代立憲政治の基礎をつくる上で大きな貢献をした民権家、政治家である石坂昌孝が、生誕直後から居住し、晩年まで政治活動の拠点とした屋敷地跡です。

1878(明治11)年の記録では、庭園が芝生の西洋風であったとされ、横浜から文明開化の影響を受けたものであったと考えられます。

本屋敷跡は、昌孝の思想形成や歴史的な役割を知る上で象徴的な場所であるとともに、昌孝の長女美那と文学評論家、詩人として著名な北村透谷がこの地で出会い、その後恋愛結婚へと至ったことから新しい恋愛観を世に問う契機となった場所でもあります。

以上のことから、石坂昌孝屋敷跡は、町田市固有の地域の歴史、文化を理解する上で重要な由緒ある場所として、文化財的価値が高いものであるといえます。

2 石坂昌孝墓

名 称 石坂昌孝墓

管 理 者 個人

概 要 日本の近代立憲政治の基礎をつくる上で大きな貢献をした民権家、政治家である石坂昌孝の墓です。

昌孝は、地元である野津田では「昌孝(ショウコウ)さん」との愛称で呼ばれ、地域の誇りとして人々の記憶に留められています。

本人の遺言により、地元である野津田に建てられ、現在まで野津田青年会「凌霜会」や野津田町内会によって維持管理されてきた墓は、昌孝の歴史的な役割を知る上で象徴的な場所であるとともに、その遺徳をしのぶ地域の人々によって現在まで管理されてきた経緯は、石坂の人間性、地域社会との関係性を知る上でも貴重な事例であります。

以上のことから、石坂昌孝墓は、町田市固有の地域の歴史、文化を理解する上で重要な由緒ある場所として、文化財的価値が高いものであるといえます。